

交流文化学科授業科目表

学則別表 I-4 交流文化学科

科目群	部 門	科 目	単 位	必 修	選択必修	選 択
学 科 基 礎 科 目	概 論	交流文化の世界	2	2		
		交流文化概論 i	2	2		
		交流文化概論 ii	2	2		
		交流文化概論 iii	2	2		
		基礎演習 I	2	2		
		基礎演習 II	2	2		
	英 語	英語の世界 I	2	2		
		English for Business I	1	1		
		English for Business II	1	1		
		Listening & Speaking I	1	1		
		Listening & Speaking II	1	1		
		Communicative Grammar I	1	1		
		Communicative Grammar II	1	1		
		Reading Strategies I	1	1		
		Reading Strategies II	1	1		
		Reading Strategies III	1	1		
		Reading Strategies IV	1	1		
		Writing Strategies I	1	1		
		Writing Strategies II	1	1		
		Comprehensive English I	1	2		
Comprehensive English II	1	2				
Comprehensive English III	1	1				
Comprehensive English IV	1	1				
E-learning I	1	1				
E-learning II	1	1				
学 科 共 通 科 目	英 語	英語専門講読 I	2	8		
		英語専門講読 II	2			
		英語の世界 II	2		2	
		観光英語 I	2			
		観光英語 II	2			
		通訳案内士の英語 I	2			
		通訳案内士の英語 II	2			
		Business Writing	2			
		Advanced Writing	2			
		翻訳 I	2		4	
		翻訳 II	2			
		College Grammar	2			
		Communication Skills	2			
		Discussion	2			
		Discussion & Current Affairs	2			
		Debate I	2			
		Debate II	2			
		Debate & Critical Thinking I	2			
		Debate & Critical Thinking II	2			
		Academic Lecture	2			
		Listening and Pronunciation	2			
		英語の音声	2			
		通訳 I	2			
		通訳 II	2			
英語ビジネス・コミュニケーション	2					
英語ビジネス・コミュニケーション実務	2					
メディア英語 I	2					
メディア英語 II	2					
シネマ英語	2					

学 科 専 門 科 目	ツーリズム	ツーリズム・メディア論	2	2	8
		ツーリズム文化論	2		
		航空事業論	2		
ツーリズム事業論		2			
ホテル・クルーズ事業論		2			
国際イベント・コンベンション論		2			
ツーリズム政策論		2			
地域づくり論		2			
ツーリズム人類学		2			
オルタナティブ・ツーリズム論		2			
エスニック・ツーリズム論		2			
ツーリズム・リスク論		2			
ツーリズム特殊講義		2			
フィールドワーク論	2				
インターンシップ	4				
ト ラ ン ス ナ シ ョ ナ ル 文 化	トランスナショナル文化論	2	2	12*	
	トランスナショナル・メディア論	2			
	表象文化論	2			
	開発文化論	2			
	トランスナショナル社会学	2			
	食の文化論	2			
	国際子ども権論	2			
	国際ジェンダー論	2			
	メディア社会学	2			
	英語圏の文学と文化	2			
	トランスナショナル文化特殊講義	2			
	英語圏のエリア・スタディーズa	2			
	英語圏のエリア・スタディーズb	2			
ヨーロッパの文化	2				
グ ロ ー バ ル 社 会	グローバル社会論a	2	2	12*	
	グローバル社会論b	2	2		
	国際協力論	2			
	国際開発論	2			
	国際交流論	2			
	国際NGO・ボランティア論	2			
	英語圏の国際関係a	2			
	英語圏の国際関係b	2			
	グローバル・ヒストリーa	2			
	グローバル・ヒストリーb	2			
	グローバル社会特殊講義	2			
	グローバル社会文献セミナー	2			
	ヨーロッパの社会	2			
免 許**	英語科教科教育法I	2			
	英語科教科教育法II	2			
	英語科教科教育法III	2			
	英語科教科教育法IV	2			
卒業論文		8			
外国語学部共通科目（別表I-5）			2***		
全 学 共 通 授 業 科 目	（別表I-1） 全学総合科目群	全学総合講座部門			16
		全学共通講義科目部門			
		全学共通実践科目部門			
		スポーツ・レクリエーション部門			
（別表I-2） 外国語科目群	外国語部門（英語以外）****			14	
	日本語部門*****				
	英語部門*****				
演習		2	8		
卒業に必要な単位数合計			60	40	28
			128		

備考

- 卒業に必要な選択科目のうち16単位までは、他学部および他学科の単位をもって代用できる。ただし、他学部科目の単位は、8単位以内とする。
 - *「トランスナショナル文化」部門および「グローバル社会」部門の必修科目を除く科目の中から、合わせて12単位を選択必修とする。
この場合において、12単位のうち2単位は「トランスナショナル文化」部門から修得するものとする。
 - **「英語科教科教育法I」、「英語科教科教育法II」、「英語科教科教育法III」、「英語科教科教育法IV」は、教職課程履修者のみ履修することができる。
 - ***外国語学部共通科目のうち「情報科学各論」2単位を必修とする。
 - ****外国語部門（英語以外）は、ドイツ語、フランス語、スペイン語、中国語、韓国語のうちいずれか一か国語とし、1学年（1,2学期）に6単位、2学年（3,4学期）に6単位、3学年（5,6学期）に2単位を履修するものとする。
 - *****日本語部門は、外国人学生および帰国学生が、別に定める規程に基づき履修することができる。
 - *****交流文化学科学生は、「全学共通授業科目 外国語科目群」の英語部門は履修することができない。
- 本表は、2019年度入学者から適用する。ただし、2018年度以前に入学者ならびに2019年度以前に第2学年に入学者および2020年度以前に第3学年に入学者については、なお従前の例による。

科目群	部門	科目	単位	学期配当								受講制限	既修・履修条件	重複履修	備考	
				1	2	3	4	5	6	7	8					
学 科 専 門 科 目	ツーリズム	ツーリズム・メディア論	2				○	○	○	○	○	○			×	
		ツーリズム文化論	2				○	○	○	○	○	○	◎		×	
		航空事業論	2				○	○	○	○	○	○	◎		○	同一教員の場合は教員の許可を得ること
		ツーリズム事業論	2				○	○	○	○	○	○	◎		×	
		ホテル・クルーズ事業論	2				○	○	○	○	○	○	◎		○	同一教員の場合は教員の許可を得ること
		国際イベント・コンベンション論	2				○	○	○	○	○	○	◎		○	同一教員の場合は教員の許可を得ること
		ツーリズム政策論	2				○	○	○	○	○	○	◎		○	同一教員の場合は教員の許可を得ること
		地域づくり論	2				○	○	○	○	○	○	◎		○	同一教員の場合は教員の許可を得ること
		ツーリズム人類学	2				○	○	○	○	○	○	◎		×	
		オルタナティブ・ツーリズム論	2				○	○	○	○	○	○	◎		×	
		エスニック・ツーリズム論	2				○	○	○	○	○	○	◎		○	同一教員の場合は教員の許可を得ること
		ツーリズム・リスク論	2				○	○	○	○	○	○			×	
		ツーリズム特殊講義	2				○	○	○	○	○	○	◎		○	同一教員の場合は教員の許可を得ること
	フィールドワーク論	2				○	○	○	○	○	○	◎		×		
	インターンシップ	4				○	○	○	○	○	○	◎		×		
	トランスナショナル文化	トランスナショナル文化論	2				○	○	○	○	○	○			×	
		トランスナショナル・メディア論	2				○	○	○	○	○	○	◎		○	同一教員の場合は教員の許可を得ること
		表象文化論	2				○	○	○	○	○	○	◎		○	同一教員の場合は教員の許可を得ること
		開発文化論	2				○	○	○	○	○	○	◎		○	同一教員の場合は教員の許可を得ること
		トランスナショナル社会学	2				○	○	○	○	○	○	◎		○	同一教員の場合は教員の許可を得ること
		食の文化論	2				○	○	○	○	○	○	◎		○	同一教員の場合は教員の許可を得ること
		国際子ども人権論	2				○	○	○	○	○	○	◎		○	同一教員の場合は教員の許可を得ること
		国際ジェンダー論	2				○	○	○	○	○	○	◎		○	同一教員の場合は教員の許可を得ること
		メディア社会学	2				○	○	○	○	○	○	◎		○	同一教員の場合は教員の許可を得ること
		英語圏の文学と文化	2				○	○	○	○	○	○	◎		○	同一教員の場合は教員の許可を得ること
		トランスナショナル文化特殊講義	2				○	○	○	○	○	○	◎		○	同一教員の場合は教員の許可を得ること
		グローバル社会	英語圏のエリア・スタディーズa	2				○	○	○	○	○	○			×
	英語圏のエリア・スタディーズb		2				○	○	○	○	○	○			×	
	ヨーロッパの文化		2				○	○	○	○	○	○			×	
	グローバル社会論a		2				○	○	○	○	○	○			×	
	グローバル社会論b		2				○	○	○	○	○	○			×	
	国際協力論		2				○	○	○	○	○	○			×	
	国際開発論		2				○	○	○	○	○	○			×	
	国際交流論		2				○	○	○	○	○	○			×	
	国際NGO・ボランティア論		2				○	○	○	○	○	○			×	
英語圏の国際関係a	2					○	○	○	○	○	○			×		
免許	英語圏の国際関係b	2				○	○	○	○	○	○			×		
	グローバル・ヒストリーa	2				○	○	○	○	○	○			×		
	グローバル・ヒストリーb	2				○	○	○	○	○	○			×		
	グローバル社会特殊講義	2				○	○	○	○	○	○			○	同一教員の場合は教員の許可を得ること	
	グローバル社会文献セミナー	2				○	○	○	○	○	○	◎		○	同一教員の場合は教員の許可を得ること	
	ヨーロッパの社会	2				○	○	○	○	○	○			×		
	英語科教科教育法Ⅰ	2				○	●	○	○	○	○		教職課程登録者	×		
	英語科教科教育法Ⅱ	2					●	○	○	○	○	◎	教職課程登録者	×		
英語科教科教育法Ⅲ	2					○	●	○	○	○	◎	教職課程登録者	×			
英語科教科教育法Ⅳ	2					○	○	○	○	○		教職課程登録者	×			
卒業論文	8									*	○		×			
外国語学部共通科目															外国語学部共通科目のページを参照	
全学共通授業科目															全学共通授業科目のページを参照	
演習	2						●	●	●	●	◎	3学期修了時20単位以上の修得単位が必要	2単位まで	原則、5学期から8学期で履修		

備考
 (1) 学期配当欄の○印は履修できる学期を、●印は履修が望まれる学期を示しています。
 (2) 受講制限欄に◎印のあるものは定員があります。『授業時間割表』で人数を確認してください。
 (3) 卒業論文(*印)は、原則として7学期に所定の手続が必要です。

英語レベル一覧表

上級	TOEIC® LISTENING AND READING TEST	800点以上	中級	TOEIC® LISTENING AND READING TEST	600点以上
	TOEFL® TEST	(PBT) 520点以上 (iBT) 68点以上		TOEFL® TEST	(PBT) 480点以上 (iBT) 54点以上
実用英語技能検定 準1級以上					

交流文化学科のカリキュラム

カリキュラムの特色

入学時に行われるTOEIC® LISTENING AND READING TEST (IP) の得点に基づいた習熟度別クラスを設け、1年次に週5回の英語の授業に加え2種類以上のe-learningを利用した英語学習が必修となっていることで、英語コミュニケーション能力の向上を効率的に図れます。また、各学期に50クラス以上開講されている学科共通科目の英語授業については英語学科の学生と一緒に切磋琢磨しながら学習できる環境となっています。そして、このような英語学習の成果を測るため、TOEIC® LISTENING AND READING TEST (IP) およびTOEIC® SPEAKING AND WRITING TEST (IP) の受験を義務付けています。さらに2つめの外国語として、ドイツ語、フランス語、スペイン語、中国語、韓国語の5つの言語からひとつを学習し、1学年・2学年に週3回、3学年にも週1回の授業があります。

一方、専門科目については「ツーリズム」「トランスナショナル文化」「グローバル社会」の3部門に充実した授業科目を用意していますので、各自の興味と探求心に応じた専門的勉強をすることができます。

カリキュラムの流れ

※太字は必修科目です。

		1年次		2年次		3年次		4年次	
		1学期	2学期	3学期	4学期	5学期	6学期	7学期	8学期
学科基礎科目・共通科目	概論	交流文化の世界 交流文化概論 i 交流文化概論 iii 交流文化概論 ii 基礎演習 I 基礎演習 II							
	英語	Listening & Speaking I・II Reading Strategies I・II Writing Strategies I・II Comprehensive English I・II E-Learning I・II		英語の世界 I English for Business I・II Communicative Grammar I・II Reading Strategies III・IV Comprehensive English III・IV 英語専門講読 I・II 英語の世界 II 観光英語 I・II 通訳案内士の英語 I・II		Business Writing Advanced Writing 翻訳 I・II College Grammar Communication Skills Discussion Discussion & Current Affairs Debate I・II Debate & Critical Thinking I・II		Academic Lecture Listening and Pronunciation 英語の音声 通訳 I・II 英語ビジネス・コミュニケーション 英語ビジネス・コミュニケーション実務 メディア英語 I・II シネマ英語	
	演習 (ゼミナール)								
学科専門科目	ツーリズム			ツーリズム・メディア論 ツーリズム文化論 航空事業論 ツーリズム事業論 ホテル・クルーズ事業論		国際イベント・コンベンション論 ツーリズム政策論 地域づくり論 ツーリズム人類学 オルタナティブ・ツーリズム論		エスニック・ツーリズム論 ツーリズム・リスク論 ツーリズム特殊講義 フィールドワーク論 インタナショナルシップ	
	トランスナショナル文化			トランスナショナル文化論 トランスナショナル・メディア論 表象文化論 開発文化論 トランスナショナル社会学		食の文化論 国際子ども人権論 国際ジェンダー論 メディア社会学 英語圏の文学と文化		トランスナショナル文化特殊講義 英語圏のエリア・スタディーズ a 英語圏のエリア・スタディーズ b ヨーロッパの文化	
	グローバル社会			グローバル社会論 a グローバル社会論 b 国際協力論 国際開発論 国際交流論		国際 NGO・ボランティア論 英語圏の国際関係 a 英語圏の国際関係 b グローバル・ヒストリー a グローバル・ヒストリー b		グローバル社会特殊講義 グローバル社会文献セミナー ヨーロッパの社会	
学部共通科目	外国語学部総合講座・コンピューター関連科目 (情報科学概論、情報科学各論)・経済原論・社会心理学								
全学共通授業科目	全学総合講座部門 全学共通講義科目部門		全学共通実践科目部門 スポーツ・レクリエーション部門						
	ドイツ語・フランス語・スペイン語・中国語・韓国語 いずれか1言語を1年次・2年次に週3回、3年時に週1回学習					その他に学べる外国語 イタリア語・ポルトガル語・ロシア語・タイ語 アラビア語・現代ヘブライ語・ことばと思想 2 (古典ギリシア語、ラテン語) トルコ語			

卒業に必要な単位数

科目群ごとに次の要件を満たし、**128**単位を修得します。

科目群等	必修・選択必修	選択
学 科 基 礎 科 目	34単位	12単位
学 科 共 通 科 目	14単位	
学 科 専 門 科 目	28単位	
外国語学部共通科目	2単位	
卒 業 論 文	—	
演 習	8単位	—
全学共通授業科目	14単位	16単位
合 計	128単位	

選択科目のうち16単位までは、他学部および他学科の単位を卒業要件に参入することができます。ただし、他学部科目の単位は、8単位以内に限ります。

各学期に登録できる単位数

1学期	2学期	3学期	4学期	5学期	6学期	7学期	8学期
20単位	20単位	22単位	22単位	24単位	24単位	24単位	24単位

教職・司書教諭・司書課程科目は登録上限に含まれません。

進級について

8学期までは修得単位数に関係なく進級できますが、各学期で登録単位数が限られているため、**4学期終了時まで**に**32単位**、または**6学期終了時まで**に**80単位**を修得できない場合は、**4年（8学期）間で卒業することができません**。ただし、「大学以外の教育施設等における学修」（P.18～19）、短期留学等による単位の認定を受けた場合はこの限りではありません。

休学した場合は同一学期にとどまります。

1学年（1・2学期）

1学年（1・2学期）は、2学年（3・4学期）から履修を開始する「ツーリズム」「トランスナショナル文化」「グローバル社会」部門の専門的研究へのイントロダクションとなる科目を勉強し、同時に週5回の英語と週3回の第二外国語の訓練をするとても大事な時期です。この1年間の学習時期の過ごし方次第で、残り3年間の学問研究と卒業後の進路の有り様が大きく変わります。受験勉強から解放され、クラブ・サークル活動に熱中するという経験も大事でしょう。アルバイトをすることも良き社会経験となるでしょう。

しかし、社会人になってからではできないこと、大学生のうちにしかできないことに時間とエネルギーを注いで大学生活を送ってあげれば、就職活動期を迎えたとき、「あれをやってあげればよかった、これもやってあげればよかった」と後悔しないですむようになります。

登録できる単位数

登録できる単位数は1学期・2学期ともに**20**単位までです。ただし、教職課程科目は、この中に含まれません。学科基礎科目の必修科目や第二外国語（英語プラス1言語）のように、3学期（2学年）になるまで再履修ができない科目も多いので、よく注意してください。

教職課程を履修するには「課程登録」が必要です。詳しくは、教職課程ガイダンスに出席するとともに『履修の手引』の「免許及び資格課程」（P.184～221）を参照してください。

英語クラスについて

1学年の英語クラスは、入学時に行うTOEIC[®] LISTENING AND READING TEST (IP) のスコアに基づいて習熟度別に編成します。

履修できる科目

①学科基礎科目

②外国語学部共通科目、全学共通授業科目、その他

指定された学科基礎科目を履修したうえで、さらに各学期で定められている履修単位数の上限を超えない範囲で「全学共通授業科目」「外国語学部共通科目」などを履修することができます。他学部・他学科科目の履修は3学期以降可能です。

指定されたすべての学科基礎科目については履修登録時にすでに入力されています。登録時に必ず確認をしてください。

「全学共通授業科目」および「外国語学部共通科目」のほとんどの科目は、履修登録時に抽選となります。詳しくは、『授業時間割表』で確認してください。

全学共通授業科目および「外国語学部共通科目」の履修は、4年間で必要な単位を修得すればよいのですが、定員制をとっているため、必ずしも希望する科目を履修登録できるとは限りません。したがって、このことに留意して履修計画を立てる必要があります。詳しくは『履修の手引』の「全学共通授業科目」（P.26～29）または『授業時間割表』で確認してください。

全員が履修する必修科目

第二外国語（英語プラス1言語）
（全学共通授業科目）

全学共通授業科目の「外国語部門（英語以外）」のうち、ドイツ語・フランス語・スペイン語・中国語・韓国語の中から1つの言語が第二外国語（英語プラス1言語）として受講指定されます。1科目1単位で、1学年・2学年にそれぞれ週3回6単位、3学年には週1回2単位、3年間合計で14単位履修します。受講指定された言語は在学中に変更することはできません。

情報科学各論

「外国語学部共通科目」のうち、「情報科学各論」2単位は必修科目です。4年間のうちに必ず履修してください。「外国語学部共通科目」については『履修の手引』の「外国語学部共通科目について」（P.34）を参照してください。

I学年（1・2学期）に履修する学科基礎科目（全員が履修する基礎科目）

科目名	単 位	概 要
交流文化の世界	2	春学期に履修
交流文化概論 i・ii・iii	2	ii・iiiは春学期、iは秋学期に履修
基礎演習 I・II	2	Iは春学期、IIは秋学期に履修
Listening & Speaking I・II	1	Iは春学期、IIは秋学期に履修
Reading Strategies I・II	1	Iは春学期、IIは秋学期に履修
Writing Strategies I・II	1	Iは春学期、IIは秋学期に履修
Comprehensive English I・II	1	週2回 Iは春学期、IIは秋学期に履修
E-learning I・II	1	Iは春学期、IIは秋学期に履修

「交流文化の世界」

現代においては、国境を越えて移動する人とともに、国や民族に固有のものと思われがちだった文化も交流して変化しつねに新しく創造されています。本授業では、そのような「交流文化」について、言語（英語、英語プラス1言語）、およびツーリズム、トランスナショナル文化、グローバル社会の3つの専門分野の学びの入門編として、国家や民族、宗教や言語の壁を超えて交流する文化と社会を多角的に理解するために必要な知識や視点を学びます。交流文化学科の学びにおいて、語学や専門各分野は単独の領域として存在するのではなく、相互に重なり合っています。このことを意識しつつ、本授業は各教員によるオムニバス形式で行います。

春学期に履修し、1科目は2単位です。

「交流文化概論 i」

ツーリズムによる国際的な人間の流動は、文化・社会・経済の幅広い領域に関わる複合的な現象です。本学科では、「ツーリズム＝人と文化の越境現象」という理解に基づき、ツーリズムが経済的現象であるだけでなく人々の交流を通じて新たな文化を創出する媒介となる役割を有していることを重視しています。この講義では、ツーリズム研究に関わる基礎的な用語や概念について解説し、ツーリズムを支える諸産業の役割やツーリズムが地域にもたらす経済的・社会的・文化的なインパクトの諸相について考察します。

秋学期に履修し、1科目は2単位です。

「交流文化概論 ii」

文化を、特定の民族や、言語、宗教に固有で不変なものとして捉えるのではなく、地理的な境界を越えて移動し、変容、混淆する動的なものとして捉える見方を学びます。文化が、「ナショナル」な枠組みの中で構築されるプロセスと、「トランスナショナル(transnational)」に移動していくプロセスをさまざまな伝播、交流、受容の歴史を背景に検証します。これらのテーマを、文化人類学と社会学の知見から考え、ツーリズムなどの人の移動が、文化の移動にどのように関わっているかを考察します。

春学期に履修し、1科目は2単位です。

「交流文化概論 iii」

この講義では国際関係論の導入を行います。国際関係論の誕生、戦争と平和、国際関係における秩序、国民国家とナショナリズム、グローバル社会の形成とその背景など、個別テーマを通じて、現代国際関係の特徴を考えます。また、第二次世界大戦後の国際関係の歴史にも簡単に触れ、国際関係がどのような変化を遂げてきたのかを解説します。

春学期に履修し、1科目は2単位です。

「基礎演習Ⅰ・Ⅱ」

この授業はクラスアドバイザーが担当します。

「大学で学んでどういうことだろう?」「大学での授業についていけるだろうか?」……これは大学に入学したばかりの1年生が共通して持つ疑問や不安です。「基礎演習」では、交流文化学科の専門領域である「ツーリズム」「トランスナショナル文化」「グローバル社会」を中心にしたさまざまなトピックを題材に使って、クラスでディスカッションを行います。さらに個人もしくはグループで研究を行い、それをクラスメートの前で発表し、ペーパー（レポート）としてまとめていく作業を通じて、大学での勉強への取り組み方を身につけていきます。調査の方法、文献検索の仕方からコンピューターを使ったプレゼンテーションまで、クラスアドバイザーの教員が丁寧に指導します。1年生からゼミの気分が味わえて、大学生に必要なリテラシーをきっちり学ぶ、楽しさと有益さに満ちた授業です。

春学期にⅠ、秋学期にⅡを履修し、1科目は2単位です。

「Listening & SpeakingⅠ・Ⅱ」

コミュニケーションにおいて、相手の言ったことが聞き取れ、また自分の言ったことが相手に通じることがとても重要なのは言うまでもありません。この授業では、より英語らしい音声について理解し、練習を通して英語の聴解能力と発音技能の向上を目指します。

春学期にⅠ、秋学期にⅡを履修します。1科目は1単位です。

「Reading StrategiesⅠ・Ⅱ」

英語で書かれたテキストを読むことを通じて、英語の語彙を増やしながらか、英語表現や書かれている内容について英語で考える能力を養い、併せて外国の文化や文学について学びます。基礎的な読解スキル（Previewing and predicting; Recognizing patterns in paragraphs; Recognizing patterns of text organizationなど）の習得を目指します。

春学期にⅠ、秋学期にⅡを履修します。1科目は1単位です。

「Writing StrategiesⅠ」

高校までに学習してきた、一文レベルでの英訳に必要なポイントを復習した上で、正確な文や文章を書くということに焦点を当てます。正確な文や文章を書くことの積み重ねを通じて、大学生として、英語で小論文を書き上げるための基礎を養います。

春学期に履修し、1科目は1単位です。

「Writing StrategiesⅡ」

「Writing StrategiesⅠ」で学んだことを応用しながら、論理的に筋の通ったパラグラフを1つのまとまりとして、文章内でパラグラフを適切に配置し論理的な文章を構成する書き方を学びます。大学生として、英語で小論文やまとまった文章を書き上げるための基礎を養います。

秋学期に履修し、1科目は1単位です。

「Comprehensive English I」

英語の4技能の総合的向上を目指しながら、オーラル・コミュニケーション能力の向上に焦点を置きます。英語母語話者が担当し、1回の授業の中で、受講者が4技能を用いて受講者相互ならびに教員とのコミュニケーションを実際に行う機会をできる限り多く設けます。正確さに注意を払いながらも、間違ふことを恐れずに英語を使い、「コミュニケーションがとれた」という経験を多くすることを通じて、ある程度の正確さを犠牲にしながらも、実際に‘communicative’なやりとりができることを体験的に学習することが主眼となります。春学期に履修し、週2回の授業で、1科目1単位です。

「Comprehensive English II」

この授業では、「Comprehensive English I」で「コミュニケーションできる喜び」を経験した次の段階として、よりいっそう正確さを意識しながら‘communicative’なやりとりができるように訓練します。英語母語話者が担当します。秋学期に履修し、週2回の授業で、1科目1単位です。

「E-learning I・II」

オンライン教材を用いて、様々な英語に触れながら「Reading Strategies」、「Writing Strategies」や「Comprehensive English」など他の英語の授業で学習した4技能や語彙力の定着とさらなる向上を目指します。大学在学中のみならず将来においても自律的学習者になるために、授業時間以外にオンライン教材を用いて自主学習する習慣を身につけます。オンライン教材へのアカウント登録や課題に関するガイダンスがありますので、必ずシラバスを参照してください。春学期にI、秋学期にIIを履修します。1科目は1単位です。

履修上の注意

各自の卒業要件「交流文化学科授業科目表」(P.76~77)と「交流文化学科科目特性表」(P.78~79)を参照し、履修できる科目を確認して登録してください。

再履修について

学科基礎科目の必修科目および第二外国語（英語プラス1言語）は春学期ないし秋学期のいずれかにしか開講されません。修得できなかった場合は、2学年（3学期）以降に再履修を行ってください。したがって、単位を修得できないと、次年度まで履修の機会がありません。このことに留意しないと、学年が進み、万が一再履修科目が増えると、4学年での履修にしわ寄せが来て、最悪の場合4年間で卒業できないおそれも生じます。なお、ほかの履修上の情報については、「交流文化学科科目特性表」(P.78~79)をご覧ください。

履修できない科目

全学共通授業科目の外国語科目群「英語部門」、「外国語部門（英語以外）」の第二外国語（英語プラス1言語）で履修している言語は履修できません。

2学年（3・4学期）

3・4学期は、学修上の方向付けを決定する大切な時期です。具体的には、自分の学習したい専門領域（「ツーリズム」「トランスナショナル文化」「グローバル社会」部門）の授業科目を自分の目標に沿ってバランスよく履修していく時期です。また、学科共通科目として20種類以上の英語関連科目から選択履修できるようにもなります。さらに、3学年（5学期）から履修する「演習（ゼミ）」の選択も行います。ほかに、他学部・他学科の授業科目が履修可能となります。履修計画は十分検討して立てましょう。

登録できる単位数

登録できる単位数は3学期・4学期とも**22**単位までです。ただし、教職・司書教諭・司書課程科目はこの中に含まれません。

英語クラスについて

1学年（2学期）に受験するTOEIC® SPEAKING AND WRITING TEST（12月上旬実施予定）とTOEIC® LISTENING AND READING TEST（1月下旬実施予定）のスコアに基づいて習熟度別に編成します。

他学部・他学科履修

交流文化学科を卒業するのに必要な選択科目の単位のうち合計16単位までは、他学部の授業科目（上限8単位）または外国語学部他学科の授業科目（上限16単位）の単位をもって代用することができます。これにより、たとえば英語をもっと勉強したければ英語学科の授業を履修することができ、それ以外の言語もドイツ語学科・フランス語学科あるいは国際教養学部の授業で履修できます。もちろん他学部・他学科の専門講義科目も履修できます。詳しくは『履修の手引』の「他学部および他学科科目の履修」（P.35）を参照してください。

「演習（ゼミ）」の登録

3学年（5学期）から履修する「演習」の選択と決定を4学期中に行います。募集期間に先立ってガイダンスがあり、その後それぞれの演習の説明会が開かれます。決められた応募期間内に『演習の手引』も参考にしうえて、必ず応募の手続きを取ってください。定員を超える応募者のある場合は選考となります。選考に漏れた場合は2次の募集期間に応募してください。募集は3次まであります。なお、3学期終了時に20単位以上を修得していない場合は、演習の登録ができません。また、2年次春学期実施のTOEIC® LISTENING AND READING TEST（IP）の未受験者およびその追試験の未手続き者は、募集期間の第1次登録ができず（つまり第1志望のゼミに応募できず）、第2次登録からとなることに留意してください。

全員が履修する必修科目

第二外国語（英語プラス1言語）
（全学共通授業科目）

1学年（1・2学期）で学習した第二外国語（英語プラス1言語）を、指定された曜日・時間で3科目（週3回）履修します。言語の変更はできません。

学科基礎科目

2学年（3・4学期）に履修する学科基礎科目（全員が履修する基礎科目）

科目名	単 位	概 要
英語の世界 I	2	春学期に履修
English for Business I・II	1	Iは春学期、IIは秋学期に履修
Communicative Grammar I・II	1	Iは春学期、IIは秋学期に履修
Reading Strategies III・IV	1	IIIは春学期、IVは秋学期に履修
Comprehensive English III・IV	1	IIIは春学期、IVは秋学期に履修

「英語の世界 I」

英語学の知見から、高校までに習ってきた英語の基礎的な知識を反映する具体的な事例を解説します。特に、日本語と、英語や国際共通語としての英語との違いをみていくことで、英語という言語がどのような規則性に基づいて成り立っているのかを考察します。また、英語の音声と文法に関する様々な現象を分析し、ことばの規則性を探ることによって、英語に関する知識や文法を理屈抜きに丸暗記するのではなく、論理的に言語現象を捉えられるようになることを目指します。

春学期に履修し、1科目は2単位です。

「English for Business I」

初学者を対象に、ビジネス場面における基礎レベルの英語運用能力の習得を目指し、上級科目である「Business Writing」「英語ビジネス・コミュニケーション」「英語ビジネス・コミュニケーション実務」等を履修するための予備的な実力を養います。

writingでは、短い簡潔な文章をできるだけ多く書けるように練習し、最終的には簡単な英語でのビジネスメールやレターを書けるようになることを目指します。

readingでは、英字新聞で使用されているビジネスに関する基本的な語彙や表現を学び、writingと関連させてビジネス英語の基本を身につけます。

春学期に履修し、1科目は1単位です。

「English for Business II」

「English for Business I」で学習したことを基に、次のようなスキルや知識を獲得することを目指します。

- ①手紙、電子メールなど、各種通信媒体を用いた簡単なビジネス通信文の書き方と読み方
- ②履歴書、推薦状、各種報告書など、日常的なビジネス文書の書き方と読み方
- ③電話、面談等による簡単な商談や社交の会話表現
- ④ビジネス場面に用いる基本語彙

秋学期に履修し、1科目は1単位です。

「Communicative Grammar I・II」

「英語の世界I」を通じて身につける、高校までに習得してきた英語の基礎的知識を論理的に捉え直す姿勢・思考と、英語学の知識を用いながら、基本的語法・文法項目を適切かつ確実に習得することを目的とします。実際に語法や文法の問題を解き、英語学的知見からの解説を受け、英語に関する様々な知識を論理的に整理しながら学んでいきます。

春学期にI、秋学期にIIを履修します。1科目は1単位です。

「Reading Strategies III・IV」

「Reading Strategies I・II」で習得した読解スキル（Previewing and predicting; Recognizing patterns in paragraphs; Recognizing patterns of text organizationなど）を応用しながら、英語で書かれた文章を精読します。また、まとまりのある文章を全体的に捉え、あらすじやテーマを把握し、約70%の理解度で読み進めることのできるスキルを身につけることも目指します。「Reading Strategies IV」では、このようなスキルを用いて様々な英文を多読していきます。

春学期にIII、秋学期にIVを履修します。1科目は1単位です。

「Comprehensive English III・IV」

「Comprehensive English I・II」で習得したことを応用し、4技能のさらなる向上を目指しながら、特にディスカッション能力と、テキストの分析・読解能力を身につけていきます。英語母語話者が担当します。

春学期にIII、秋学期にIVを履修します。1科目は1単位です。

履修上の注意

各自の卒業要件「交流文化学科授業科目表」(P.76～77)と「交流文化学科科目特性表」(P.78～79)を参照し、履修できる科目を確認して登録してください。

再履修科目

1学年(1・2学期)に学科基礎科目の必修科目および第二外国語(英語プラス1言語)の単位を修得できなかった場合は、**すべての科目に優先して再履修**してください。

なお、2学年(3・4学期)での受講指定科目と曜日・時限が重なった場合は、教務課外国語学部係で相談してください。

学科共通科目・
学科専門科目

2学年（3学期）から学科共通科目、学科専門科目が履修可能となります。これらの科目は原則として学期完結科目です（ただし一部春・秋セットでの履修が望ましいものもあります）。また、学期配当、人数制限、履修条件、重複履修等の制限・条件があります。履修をする際は必ず「交流文化学科科目特性表」（P.78～79）を確認してください。

履修条件のある科目

ほとんどすべての学科共通科目に履修条件があります。事前に指定された科目の単位を修得しているか、TOEFL® TEST・TOEIC® LISTENING AND READING TESTで一定のスコアを取得していたり、実用英語技能検定の特定の資格を取得していることが履修の条件になっています。詳しくは下記の表と「交流文化学科科目特性表」（P.78～79）を参照してください。

学科共通科目・学科専門科目を履修する際の条件

科目名	履修条件
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ College Grammar 英語ビジネス・コミュニケーション メディア英語Ⅰ	Reading StrategiesⅠ・ⅡおよびComprehensive EnglishⅠ・Ⅱ
Communication Skills	Reading StrategiesⅠ・ⅡおよびComprehensive EnglishⅠ・Ⅱ または中級レベル
観光英語Ⅰ・Ⅱ 通訳案内士の英語Ⅰ・Ⅱ Advanced Writing 翻訳Ⅰ・Ⅱ Discussion Discussion & Current Affairs DebateⅠ・Ⅱ Debate & Critical ThinkingⅠ・Ⅱ Academic Lecture 通訳Ⅰ メディア英語Ⅱ シネマ英語	中級レベル
通訳Ⅱ	通訳Ⅰまたは上級レベル
英語ビジネス・コミュニケーション実務	英語ビジネス・コミュニケーション

英語レベル一覧表

上級	TOEIC® LISTENING AND READING TEST	800点以上	中級	TOEIC® LISTENING AND READING TEST	600点以上
	TOEFL® TEST	(iBT) 68点以上 (PBT) 520点以上		TOEFL® TEST	(iBT) 54点以上 (PBT) 480点以上
	実用英語技能検定 準Ⅰ級以上				

人数制限のある科目

「英語の世界Ⅱ」を除くすべての学科共通科目および一部の学科専門科目には受講者人数の制限があります。これらの科目は履修登録時に抽選あるいは選抜となります。詳しくは『授業時間割表』で確認してください。

重複履修できる科目

原則として、卒業要件を満たすために同じ科目名称の授業を繰り返し履修することはできませんが、一部の科目については重複履修が許されます。それは、履修しようとする科目の授業内容が以前履修したときの内容と異なり、かつ、担当教員が重複履修を許可した場合です。このような科目については「交流文化学科科目特性表」（P.78～79）の「重複履修」の欄をご覧ください。

履修できない科目

全学共通授業科目の外国語科目群「英語部門」、「外国語部門（英語以外）」の第二外国語（英語プラス1言語）で履修している言語は履修できません。

3学年（5・6学期）

卒業要件について

卒業に必要な単位数は**128**単位で、科目別に必修・選択必修・選択それぞれに必要とされる最低単位数が定められています。希望する授業科目を履修しながら確実に卒業するためには、残りの2年間でどのような履修計画を立てたらよいか、履修登録時に「交流文化学科授業科目表」(P.76～77)に注意深く目を通し、卒業要件を満たす履修の仕方を意識に置いて登録手続きを取るようになしてください。

登録できる単位数

登録できる単位数は5学期・6学期とも**24**単位までです。ただし、教職・司書教諭・司書課程科目はこの中に含まれません。

全員が履修する必修科目

第二外国語（英語プラスI言語）
（全学共通授業科目）

1・2学年で学習した第二外国語（英語プラスI言語）を、指定された曜日・時限で1科目（週1回）履修します。言語の変更はできません。

履修上の注意

各自の卒業要件「交流文化学科授業科目表」(P.76～77)と「交流文化学科科目特性表」(P.78～79)を参照し、履修できる科目を確認して登録してください。

第二外国語（英語プラスI言語）
（全学共通授業科目）

5・6学期に単位を修得できないと、7・8学期まで再履修の機会が巡ってきませんのでしっかり留意してください。

「英語専門講読Ⅰ・Ⅱ」

「Reading StrategiesⅠ・Ⅱ」および「Comprehensive EnglishⅠ・Ⅱ」の単位を修得していないと履修登録ができません。したがって、4学年（8学期）で卒業するためには、遅くとも3学年（6学期）までに上記の2科目とも修得していなければなりません。

このように、卒業するために必要な科目には履修制限があります。4年間で卒業できるよう、履修制限のある科目には十分注意し、そのうえで履修計画を立てるようにしましょう。

「演習（ゼミ）」

原則として4学期に行われる募集期間中に指導教員から承認を得て授業を履修します。ただし、その期間内に承認を得られなかった場合は、5学期になってから登録しますが、定員に達していないゼミからしか選ぶことができません。教務課で定員未満のゼミについての情報を得てから、希望する指導教員と連絡を取り、履修登録の許可を得てください。

再履修科目

2学年（4学期）までに学科基礎科目の必修科目および第二外国語（英語プラスI言語）の単位を修得できなかった場合は、**すべての科目に優先して再履修**してください。

なお、「演習」と再履修科目の曜日・時限が重なった場合は、教務課外国語学部係で相談してください。

4学年（7・8学期）

登録できる単位数

登録できる単位数は7学期・8学期とも**24**単位までです。ただし、教職・司書教諭・司書課程科目はこの中に含まれません。

履修上の注意

各自の卒業要件「交流文化学科授業科目表」（P.76～77）と「交流文化学科科目特性表」（P.78～79）を参照し、履修できる科目を確認して登録してください。

「卒業論文」

「卒業論文」は選択科目ですが、勉学してきた成果の集大成として論文に著し、評価を得て、単位を修得する科目です。綿密な計画を立てる必要があるため、ゼミの指導教員あるいは論文指導を希望する教員と相談してください。なお、手続きについては『履修の手引』（P.34）および『卒業論文の手引』（7学期に配布）を参照してください。

「演習（ゼミ）」

原則として3学年（5・6学期）のゼミ指導教員の「演習」をそのまま継続して履修します。その場合、履修登録の手続きは不要です。演習は同一の指導教員のもとで2年間履修することを前提としているため、原則として、演習変更（転ゼミ）は認められていません。ただし、特別な事情がある場合は教務課外国語学部係へ相談してください。

留年等による再履修者についても指導教員の承認が必要です。そのうえで教務課で登録手続きを行ってください。

再履修科目

単位が修得できなかった必修科目および第二外国語（英語プラス1言語）は、**すべての科目に優先して再履修**してください。

なお、「演習」と再履修科目の曜日・時限が重なった場合は、教務課外国語学部係で相談してください。

卒業について

卒業に必要な単位数は**128**単位です。ただし、科目別に必修・選択必修・選択それぞれに必要とされる最低単位数が定められているので、履修登録時に『履修の手引』の「交流文化学科授業科目表」（P.76～77）に注意深く目を通し、これまでに取った科目と単位に加え、これから履修しようとする科目と単位の合計が卒業要件を満たしているどうか、思い違いや単位の計算間違いがないかどうか、しっかり確認して登録してください。

なお、交流文化学科には、登録した単位を修得できず卒業要件を満たせなくなったとしても、救済のための卒業再試験制度はありません。